

令和5年度 第3回安曇野市博物館協議会 会議概要

1	会議名	令和5年度 第3回安曇野市博物館協議会
2	日時	令和6年3月5日(火) 午前9時30分から午前11時まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎 4階 大会議室
4	委員出席者	笹本委員、百瀬委員、宇田川委員、伊藤委員、城戸委員、古川委員 三原委員、(欠席者：丸山委員、森本委員、金井委員)
5	事務局出席者	三澤文化課長、豊科郷土博物館兼穂高郷土資料館 原館長、豊科近代美術館 清澤館長、田淵行男記念館兼飯沼飛行士記念館 中田館長、穂高陶芸会館 小倉 館長、高橋節郎記念美術館 宮澤館長、貞享義民記念館 寺島館長、臼井吉見文 学館 平沢館長、博物館担当 逸見係長、幅主査、文化振興担当 佐野係長、塩原 主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人
8	会議概要作成年月日	令和6年3月15日

協 議 事 項 等

○会議の概要

1 開 会 (文化課長)

2 あいさつ

会 長 本委員会で任期最後である。今、博物館にとっては本当に大きな転換期にある。博物館は全国的にデジタル化の問題、環境の問題、それぞれが非常に多くの対応しなければいけない。しかしどこでも同じだが人もお金もない。具体的にどうやっていったらいいか考えていかなければいけない。  
皆様からご意見いただき、少しでも安曇野市の博物館全体が良くなっていくように努めたい。

3 報告・協議

(1) 令和6年度 各館事業計画[資料]

各館から報告

■豊科郷土博物館

- ・企画展を2本。子ども向けの取り組みとして「昔のくらし体験教室 in 博物館」を計画。開催中の「はくせい展」は2週間で200名近くの親子があった。普段来ない30～40代のお父さんお母さんが子どもを連れて来ることで客層が広がる。企画展もあわせた内容で行う。これ以外にも、夏休みも重点的に対応していきたい。
- ・施設整備として、イス式階段昇降機の設置がある。館内の階段が急であることが非常に問題だった。昇降機を設置することで、当面改善を図りたい。これからどういうふうに設置するかも含め検討したい。

■豊科近代美術館

- ・6月から7年度8月までの間で大規模改修工事を行う。その間は基本的に休館。
- ・5月連休から5月いっぱいまで春の特別展「木下五郎展」。6月以降、三郷と豊科

の交流学习センターを使って所蔵品の移動展を4つ行う。

- ・子どもたち対象に、ワークショップを開催する。
- ・バラ園例年通り、ローズウィーク、苗販売、陶芸会館の協力で陶磁器を販売予定。
- ・休館中は、作品の資料整理をさらに進めたい。作品修復の順序立てなど行う。

#### ■田淵行男記念館

- ・5年ごとの周年事業である田淵行男賞の作品公募を実施。令和6年が公募、選考、令和7年度表彰、巡回展。
- ・田淵行男賞に子どもたちが参加できるジュニア賞を新設する。写真を通して、自然と触れ合い、健全育成に寄与したい。子ども自然観察教室「虫の会」は今年で30年目、20回の開催を予定。ちくりに生きものみらい基金充当事業、自然観察会の受入れ、学校ミュージアムに参加する。

#### ■飯沼飛行士記念館

- ・基本的に常設展示、建築物について詳細に解説しビデオ等を通じてわかりやすく理解していただけるように努めている。アンケート評価も高く、継続していく。
- ・市内の小中学校、県外の修学旅行生、校外学習の受け入れにより子どもたちに広く知ってもらうことに努めたい。安曇野市ミュージアム活性化事業、学校ミュージアムにも積極的に参加。

#### ■穂高陶芸会館

- ・開館から41年になり、備品等早めに修理したい。陶芸窯はレンガ等も傷んできている。市にも要望し、6年度には改修ができる見込み。
- ・昨年5月からコロナが第5類移行でほぼ収束し、5年度の見込みから6年度はそれほど増やしていない。毎年増やしていくと右肩上がりですこまで増えない。ほぼ横ばいの目標数値としている。
- ・親子陶芸教室が人気で年2回を3回に増やした。非常にニーズがある。予算は前年度を精査し18万円程度減額した。教育普及活動は全10回、月1回は実施。親子陶芸教室年3回、成人対象講座も昨年からはじめた。近代美術館とのコラボ事業は6年度改修により実施しない。

#### ■安曇野高橋節郎記念美術館

- ・高橋節郎生誕110年を迎える。豊田市美術館から作品をお借りし連携して、特別展を開催する。12月から3月まで改修工事を予定。休館になる12月から3月の間、豊田市美術館で110周年を開催する。
- ・出前講座、沈金講座に力を入れたい。子ども向けの講座を8月19日の山の日の実施する。
- ・今まで季節ごとにやっていた展覧会は常設展という表現だったが、お客様から常設展はいつも同じ内容なのかという質問を頂戴し、短期間でも同じ内容ではないとことを示すために、企画展とし、お客さんにとってよりわかりやすいような表現とした。節郎生誕記念コンサートが9月14日の予定。

#### ■貞享義民記念館

- ・貞享義民の業績を資料研究、公開、人権尊重に基づいて事業を行う。ギャラリーは市民の方の発表の場として利用していただく。今年度小学校が7校ほど来た。子ども向けの講座、総合的な学習への支援をする。
- ・貞享騒動の基礎講座、臨地講習等では松本市城下町を歩き、人権の関係では、満蒙開拓団の記念館に行くなど充実させていきたい。

#### ■ 臼井吉見文学館

- ・小説『安曇野』完結 50 周年にあたり、文書館企画「小説安曇野完結 50 周年記念企画」と連携しながら取り組む。生涯学習課の安曇野アカデミーで小説『安曇野』を取り上げていただいたが次年度も一緒に行いたい。政策経営課とも連携する。
- ・小学生対象の塗り絵を作った。郷土博物館の友の会「宝探し部」に協力してもらい好評だった。3点あるが、もう少し増やしたい。
- ・予算増額は、外壁塗装修繕のため。外壁の白壁を改修する。
- ・開館から毎年臼井の命日に定期講演会をやっている。来年は、阿川佐和子さんに来ていただく。

#### ■ 穂高郷土資料館

- ・職員体制も弱く、トイレもなくて施設の厳しいが 1000 名近くの入館者がある。考古学が好きな方が来館し、専門の方に資料をちゃんと見せることが良いのではないか。
- ・郷土博物館と連携し勾玉作り体験や、夏休みに子どもたちに来てもらう。また鐘の鳴る丘集会所と併せて寄っていただくようにもしたい。

#### ■ 安曇野市文書館

- ・中高生への出前講座、コンパクト展示を 14 本作り、貸し出して、文書館を知っていただく活動を取り入れた。
- ・公文書と地域資料を扱い、公文書は総務課と連携しながら検討する。重要文書利用では、収蔵資料の目録はデジタル化しているが、画像のデジタル化が課題。図書館が窓口で信州デジタルコモンズの相談をし、清澤冽、松沢求策の資料について、今年度 3 月の末、遅くとも来年度早々には、デジタルコモンズとデジ図書信州で公開できる方向に進めている。

#### ■ 博物館担当

- ・平成 27 年度、新市立博物館構想から 9 年経つ。今年 1 月に新市立博物館の整備方針検討委員会を発足した。新しい博物館をどう整備していくか、具体的にどこにどの規模のものを作るか、既存の博物館をいかに統廃合していくか併せて整備方針を検討していく。資料の整理、コンパクト展示、市内の中学校で広島長崎の原爆パネルとともに、豊科郷土博物館の戦争遺跡の出前展示をあわせて行う。来年度 3 校、被爆ピアノのコンサートをあわせて行う。

#### ・ 委員より意見

委員：学校ミュージアムは、昨年 11 月末に豊科東小、三郷中学校に初めて見させていただいた。大変良い企画。多数の作品を見せるわけではなく、少数の作品を持ち込んで説明や問題提起をされているのは非常にいい。臼井吉見については、紙芝居を作るなど工夫されている。学校ミュージアムはこれからも児童生徒の皆さんが成長する重要な時期に古きをたずねて新しきを知ること、新しい神聖な作品等に触れて感受性を磨くことで非常に有意義な活動である。今後も生徒・児童が、友人あるいは家族と美術館・博物館に入館し作品を鑑賞するような契機となると感じる。これからも継続してブラッシュアップしながら進めていただきたい。

会長：この事業は相当無理をしている。作品のためにも、冬の時期に体育館で行うことには問題がある一方で、次の時代を担う安曇野の子どもたちに感受性を

豊かにしてもらい、なおかつよそとは違うんだっていうことをわかってもらうためにも各職員が頑張っている。市内だけではなくて、東御市からも参加し、枠組みが大きくなっている。委員として普段見ないで語るというわけにいかないの、見に行っていてただだけでも大変ありがたい。

委員：郷土博物館の報告の中で、6年度の予算案が30万円の予算減少になっているこれは歳入、入館者の関係か。

豊科郷土博物館：入館料、入館者数の関係である。

委員：貞享義民記念館の、児童生徒の利用7校とあった。どこの学校の生徒か。

貞享義民記念館：市内から2校、北安曇郡・大町市、長和町からも来ていただいた。10年ほど前までは松本市の方が来ていたが最近は来られない。白馬村や大町市のセイジオザワ松本フェスティバルのついでに立ち寄っている。市内学校で継続してやっているところもあるが、社会の先生に周知して、勉強させたいということもある。先生方の力も非常に大きい。

委員：博物館からこういう学習ができますというような、提案ができたかどうか。高校もいいと思う。

学校ミュージアム小学校2校、中学校1校とあるが、鑑賞教室に実際行って中学生はものすごく反応した。「どうして若者が美術館に来ないのか博物館に来ないのか」という問いに、作品に力がないからだという私の意見に、講師の先生はかなり激しく反論された。作品に力があるのではなくて、鑑賞する力が養われていないからだと言われた。中学生は1回目と2回目の鑑賞の間に15分ほどの休み時間があった。実はこの休み時間の方が生徒同士の対話が多かった。講師の先生はそれが狙いと説明してくれた。学芸員の説明ではなく、自分たちで作品を見て鑑賞していくあの時間がとても大事で面白かった。近代美術館が対話型を継続して研究されているが、ギャラリートークではなく、対話型が良い。学芸員の方も対話型鑑賞の仕方の勉強になると思う。

会長：近代美術館からブロンズを持っていて、美術品は単に見るのではなくて触れないとわからない、子どもたちだから触れさせてやるという態度は、ものすごく感動的だ。美術を通じて感動を与え、次の時代を作っていくために、学芸員や他の方々が努力している点、本協議会として拍手を送りたい。

委員：子どもたちが収蔵品を見に来るとき、興味を持っていそうなところを汲み取り、話を広げると見る対象のリアリティが広がる。現代を生きる人々を辿り、どう役立っているか知るきっかけになる。今の生活と展示されているものがどう繋がっているか、を対話で引き出せたら良い。

友の会員として、高橋節郎記念美術館に関わって、友の会誌の表紙について夫人が作品の制作過程を解説され、作るプロセスに何があったか、作者と作品、背景を繋ぐ大事な接点となる。

会長：ご指摘のあった部分に関しては、今後とも努力を続けるように、協議会としてもお願いしたい。

当市の郷土博物館は正規の常勤職員がおらず会計年度任用職員だけ。あれもこれもやらなきゃいけない中で、全てに対応していくのは不可能。その中でみんな頑張っているということは、私どもも考えていかなきゃいけない。

美術館と博物館の展示は違い、カビの問題一つとっても異なる。人の生き方の問題、なぜこれを展示しなければいけないのか、そこに何をを感じるかは、

観る者の力でもある。展示する側は観に来る方はどれだけの力を用意してどれだけのものを受け入れようとしているかの理解が、一方で欠けているように思う。優しく分かりやすくするのが良い展示だと言われているが、美術品を観て、説明を見ないこともある。説明はなくても何を感じるかがすごく大事。どのぐらい私達が勉強しているかも関わってくる。

委員：豊科の郷土博物館の子ども向けの取り組みで、「昔の暮らし体験教室 in 博物館」では博物館に活気があり嬉しかった。保護者の方が子どもを連れて、学芸員、友の会が本当に楽しんでいる。企画展は子どもが楽しめるよう説明も全てルビがつき、クイズ形式のワークシートが用意され、親と子と一生懸命解説を読んで楽しみながらクイズを解いて、ポストカードもいただける。お昼の時間もずっと子どもたちがいた。工夫や仕掛けによって、博物館に来ていただける、その努力が素晴らしい。

常設展のテーマは研究が進めていかれると思うが、祭りも素晴らしいが、自然の資料も生かして企画展でやっていただけるのでは。

ブックレットフィールドガイド1は素晴らしい。ガイド2も楽しみである。近代美術館の大規模改修で、美術館の方から移動展示に来ていただける。「ゆりのき」が三回で「きぼう」が一回。できたら「みらい」や明科も入れていただけたら嬉しい。

田淵行男賞に今年ジュニア賞ができることに期待している。

学校ミュージアムの対話型鑑賞で子どもたちが、学芸員に作品の題名をわざわざ聞きに行っていた。普段はあまり興味なさそうな方たちが話し合っていてすごく良かった。去年は作家さんが作品を作っているところを見られて素晴らしかった。安曇野ミュージアムオンラインギャラリートークは1月の広報にQRコードが掲載されていた。ホームページの方から入ると、お知らせ欄のところにしかなくバーチャルミュージアムの方からは入れない。せっかく時間をかけて作られたなら、すぐ分かるようなところにあるといい。

会長：よく見た上で評価していただいて、最後のところはこうしたらいいですよということまで言っていただいたことを感謝する。職員たちすごくやる気になるので、今のご意見、各館長さんたちはぜひ職員に伝えていただきたい。

委員：豊科郷土博物館の「はくせい動物園」のチラシを、息子が学校から持って帰ってきたその日に「俺これ行きたい」と言ってくれた。チラシはイラストを使っていて、とてもキャッチーで、子どもたちは行きたいと思う。信毎の記事を見て、夫が「これ俺行く」と言った。所蔵品の切り口をどう持っていき、どうPRしていくのか、シンプルだが良い形でできている展覧会で楽しみである。田淵行男賞のジュニア賞、中学生以下だが、皆スマホを持ち撮影している子たちもいるから楽しみであるが、高校生は一般応募か。

田淵行男記念館：ジュニアは中学生までが対象で、それ以上は一般の対象になる。

委員：高校は写真部で活躍してやりたい子はいっぱいいると思う。ぜひチラシなどで高校にもアピールしていくのが良いのでは。

近代美術館の長期休館での移動展企画で、明科地区が抜け落ちている。協議会の美術館・博物館自体が旧南安曇郡エリア中心になっているので明科エリアが薄くなりがち。移動展の機会があれば、明科地区も若い人たちの移住、子どもたちへの思いをたくさん持っているお母さん方、保護者も多いので、

ぜひそちらのエリアで展覧会ができたらいい。

美術館・博物館は、小さな子どもから大人、お年寄り、認知症が進んでいる方も含めて大事な場所だ。知る意欲、知る喜び、自分たちの心が動いて感動するというのがいろんなきっかけを作ってくれる場所。安曇野市は職員の皆さんの頑張りで恵まれているエリアだと思うし、私も学校ミュージアムは参加したときに、子どもたちがここまで反応していることにもものすごく感動した。対話型鑑賞は、やる側のスキルを求められて難しいが、子どもたちから会話が引き出せる。準備の大変さを実感するが、ぜひ続けていろんな地域の芸術品に子どもたちが触れられる機会は進めていってほしい。

会長：会議の前に、豊科郷土博物館を見てきた。お金がない中で努力してしっかり人の心を打つ内容は、学芸員の力だ。会計年度任用職員にも関わらず頑張ってくれている事はありがたい。委員の方からきちんと評価していただくことがさらに励みになってくる。

移動展の問題は、私も長野県立歴史館でやっているお出かけ歴史館は木曾・下伊那中心、遠くで博物館に来にくいところできるだけ足を運ぶ。安曇野市の場合、南安曇郡が前提にされるが、市内でも唯一東筑摩郡であった明科も、今後視点を入れておくように。

委員：12年間この協議会、博物館に関わってきた。12年前を考えると今とだいぶ違う。12年前は、ほこりを被ったカウンターの商品の横で、居眠りしている店主のような状況だった。この委員会も他とはちょっと違う。会長のリーダーシップのもとに血が通って生き生きしている。

交流学習センター「みらい」で行われた工業展は、6～7年前に郷土博物館でも関わった。市内の30の企業の人たちに、作っているものと会社の紹介を展示した。人工衛星に載っているものなどを商工会と提携しながら展示した。子どもたちにどう呼び掛けてやっていくかが重要。

信濃毎日新聞に郷土博物館の友の会活動として、戦時体験を調べてまとめたというのが出た。そのように成果に繋がっている。12年間の努力で、ただただ頭が下がる。10年間苦労した新市立博物館構想を再検討している中、教育委員会も市も、それにどう答えていくか。実現するには、周囲から応援団が幅広く形成されなきゃいけないと思う。

長野県立歴史館で再来年「安曇野展」が計画されている。安曇野市の平和都市宣言20周年でもある。博物館の担当は2年後を見据えて、準備を進めていく。例えば市長公約の、『安曇野』を中心にした大河ドラマに対してどれくらい応えられるか、一番のチャンス。「戦争と平和」のテーマが取り上げられるとしたらその場しのぎにならないように準備する。教育委員会、各館の館長のリーダーシップにもなるが、何らかの形で、再来年くらいに新博物館構想も政治的な取り組みの焦点が当たるのではないかな。

会長：今までよりもいろんな形で前に進むため、より良くなるために、この委員会がある。市民に対しても、地域の歴史や地域の文化に対して誇りのないところに未来はない。博物館・美術館はそれに対してどういうふうに関われるのかを常に考えていかなければいけない。

今の豊科郷土博物館は非常に頑張っておられる。1人が倉石あつ子先生で、3月に辞められる。地域の歴史顕彰に大きく貢献していただいた。皆さんのご

協力、ご理解があったら博物館協議会として感謝状を出したい。事務局と相談して作らせていただく。

市の職員に博物館を回るようにきちんと連絡取ってほしい。地方で仕事をしている人たちが、博物館の状況を見ないで、いろいろ言うべきではない。何らかの形で市の職員には来ていただくようお願いしたい。

11月27日から29日にかけて、全国博物館大会が松本市である。その中ではおそらく三つぐらいの分科会が作られて、そして最後にはいくつかの部会でバスで見学をする。できたら安曇野に来ていただきたい。安曇野の学校ミュージアム等を全国に知ってほしい。これだけの事をやっていることが、安曇野としての誇りであり、次の時代を作っていく文化継承になる。博物館協議会および市全体もぜひご協力いただきたい。

委員：作品展示の際、基本的に説明は極力シンプルにお願いしたい。作品の劣化特性のために照明を暗くしてあるが、年寄りになるとだんだん読みにくくなる。小さいお子さんも読みにくいだろう。説明文を読むことに、時間取られて、作品そのものを見つめる余裕が少なくなる可能性もある。説明を別刷りで置いていただくようなことが必要では。特に高橋節郎記念美術館、近代美術館は解説がシンプルで、鑑賞しやすい。

会長：実は、シンプルにすると、なんでシンプルなんだって文句言う人もいて、そこにペーパーをわざわざ置いてあるのにも関わらずいろいろ言う人もいる。それぞれのやり方だと思うが、その点は各館で考えさせていただきたい。

#### ・任期を終えて

委員：4年間、務めさせていただいた。コロナが始まり会議をやるのかやらないのか、という所からだった。現在、美術館の仕事をしているが、安曇野市にはたくさん美術館・博物館があり、より細かに皆さんの活動を本当によく知ることができた。それぞれの館のポテンシャルの高さもあり、安曇野市民全体の興味の広さもある。松本安曇野エリアは、観光地としても非常に人気のあるエリア。国のやり方も観光に注力する方向に変わってきているが、それだけではなくて地域の子どもたちやこれからを支えていく人たちにどう伝えていくのかが大事なんじゃないか。みんなが自分の地域を好きになって、特に観光地である安曇野は自分の大好きな地域に来てくれた観光客の人にお裾分けして見せてあげること、小さい頃からの「学校ミュージアム」の活動などの経験をへることで、伝えて行くことができるのではないかなと期待している。

新博物館構想は、松本市博物館の開館も見に行きながら期待をしている。

委員：委員をやるととても良かった。大変感謝する。中学校に作品数点を搬入して、中学生3年生をグループに分けて、作品の対話型の鑑賞教室に参加した。作品が良ければたくさん市民が博物館に来てくれると思い込んでいた。しかし、鑑賞の仕方を知らないからなかなか皆さん来ないのだという大きな視点を与えられた。初めて会った中学生10人を前に、一つの作品を巡って会話が次々と出てくる機会は非常に楽しかった。どんなタイトルにするか教えてくださいと言ったら、十人十色の答えをくれた。かつてロンドンのナショナルギャラリーで体験したが、1人の学芸員の方を中心に30人ほどが集まって、作品を巡って会話している。学芸員の方が説明しているのに、皆さんが次々と問いをしてい

る。安曇野の美術館に、地域の高齢の方、中年の方たちも青年も含めて誰でもいいが、20人ぐらいがやってきて、その作品を巡って語り合う、同じようなことが起こらないかなと思っていたが、実体験させてもらって大変ありがたい。

会 長：子どもを重視すると子どもばかりじゃない、見に来るのは老人たちが多いということから始まって、非常によく勉強していただいた。

委 員：豊科北中学校の作成したパンフレットは、どのように作ったものか。

事 務 局：豊科北中学校で行った学校ミュージアムの感想をもとに子どもたちが作成した。

委 員：ある程度継続的に学校出前の授業や現場に来てもらう催しや、これから先も中学生の目でこういった感じのことは続けていくのか。

事 務 局：毎年継続して行う。

委 員：この2年間で一番願っているのは新博物館ができること。一番ショックだったのは学芸員の方が会計年度任用職員であること。博物館が好きで、関西のいろんな博物館も行ったが、私の知る限りではもちろん非正規の方もいらっしやっただが正規の方が多かった。長野県内の博物館も調べてみたが少なくとも、正規の雇用されているところがある。文化を重要視するのなら雇用の安定の面も頑張してほしい。

会 長：言われた通り、現状はおかしい。若い人たちがきちんと職場で長く続けられるような体制を作っていかなきゃいけない。そのためには学芸員は必要だということのを改めて協議会としては訴えていきたい。協議会は全員一致で正規の博物館学芸員が欲しいという議論に持ってきてほしい。

委 員：かつて東大の大森名誉教授が言われたように、教育と教養っていう言葉がある。今日行くところ、今日用事を作るということで、この1年、いろんなところを回らせていただいた。

会 長：委員の皆さんがしっかり歩いてくれているから、本協議会は成り立っている。見ずにいていろいろ言うわけにいかないだろうと、ずいぶん声を上げてきた。

副 会 長：県立歴史館で大安曇野展という形で安曇野を紹介する大きな夢が一つ、地元では、それを具体的に体感できるようにする大きな問題が一つ。もう一つは、再来年、平和や人権に関して世界に向けて発信している、という形になればということを見ている。

会 長：最初のうちはとても大変だったが途中から皆さんからいろんな意見を言っただけで次の段階を作る形になってきた。委員であろうがなかろうが、博物館・美術館などの心を育てることに対してどういう態度をとっていくかが大事だ。全てお金で換算し、人数が何人入ったらいいという話ばかりだと文化になっていかない。文化はお金もかかるし、手間もかかる。それを通じて地域の人たちの心がどれだけ豊かになってくるか。お金で換算できないものをきちんと私達は評価していくべきだと思う。私達が、安曇野の名刺としての博物館をどうして作っていくか。引き続き委員でいなくても応援し、地域が良くなるため、地域が活性化するために、文化をどうしたらいいかという視点から考えてもらいたい。

4 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。